


## メディカル英語 No.9

## 医学英語の症例報告を読む（深化版）

## —— Case Report の定型表現を使いこなす

 **今日のゴール：** No.3で学んだ Case Report の構造を土台に、実際の医学論文に登場する高度な定型表現（時系列記述・鑑別診断の論証・Discussion の考察文）を習得する。「自分で書ける」レベルを目指し、Case Report の Discussion と Learning Point を英語で構成できるようになる。

 この授業の問い

1. Case Report の Discussion では何を書くのか？ Results との違いは？
2. "To the best of our knowledge, this is the first reported case of..." はなぜ使われるか？
3. 「Learning Point」とは何か。なぜ Case Report に必要なのか？

 No.3 からの発展：Case Report の全体構造（論文形式）

セクション	No.3 で学んだこと	今回の深化
CC~Plan	臨床的構造の把握	高度な定型表現の習得
Discussion	未扱い	考察文の構造・文献との比較表現
Learning Point	未扱い	症例が教育的に示すことの要約
Conclusion	未扱い	1~2文でのまとめ定型表現

## 採点者の視点

**採点者はここを見ている —— 症例報告定型表現・深化版の問題で合格答案はこういう「構造」をしている****① なぜ同じ答えでも評価が違うのか**

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

症例報告定型表現・深化版の問題では、**定型表現の使い分け根拠**の理解が答案の質を大きく左右します。

**② 症例報告定型表現・深化版で採点者が見ているポイント**

「presented with・was found to have・was started onなどの定型表現の使い分け」を示した答案が採点者に「英語医学文書に慣れている」と映る

**💡 この授業の使い方**

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

**③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる**

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所